

(寄稿) シンディとの思い出

ハグに戸惑い 忘れられない大切な友人

41期 白木智巳

ロータックス法律会計事務所代表 大阪弁護士会所属 弁護士

シンディとは、3年11組の時に一緒のクラスでした。すでに日本語を上手に話し、クラスの皆とは日本語で会話していました。ある日の昼休み、私がクリームパンを食べていると、シンディがやってきて、突然私のクリームパンに手を伸ばし、パンの中に指を突っ込んだかと思うと、クリームを掬い取って、そのクリームを私の鼻につけて、何か英語を話して笑いながら、教室から出ていきました。傍にいた友達は、「お前、シンディと相当仲が良いな」とか、「本場のアメリカンジョークを見た」などと、笑い転がっていました。せっかくなので、もっといい話をしたいのですが、私のシンディとの一番の思い出はクリームパン事件です。もし私がパイを持っていたら、顔にぶつけられていたかもしれません!!

シンディは、3年時の9月にアメリカに戻ることになり、みんなで空港に見送りに行きました。シンディは最後にハグを求めてきましたが、私は、本当はハグをしたかったのですが、恥ずかしさからか、思わず右手を出して握手をしてしまいました。シンディが飛行機に乗ってから、「やっぱりハグした方がよかったなあ〜。」としばらく後悔していたのを覚えています。

卒業後、25周年記念の豊陵会の同窓会があり、幹事をさせてもらいました。その際、SNSで、シンディと同姓同名の人を見つけ、メッセージを送りました。そがれシンディと再会するきっかけです。数年後、シンディが大阪に仕事で来ることになったので一緒に食事することになりました。私は、今回は絶対にシンディとハグしようと決めていました。シンディと約30年ぶりに再会した際、もちろん、会うなり、ハグしました。思わず目がウルウルしました。食事をしながらシンディにクリームパン事件の話をししましたが、なんと、シンディは全く覚えていません！ また、私は、シンディがアメリカに帰るときにハグできなかったことを悔やんでいたと話したところ、シンディはそれも覚えていないようでした。ただ、「ではもう一度」といって、ハグしてくれました。シンディは、おおらかな性格で、細かいことは気にしない人です。

その後もシンディとは親交があり、LINEでやり取りして、シンディがたまに日本に来るときは、妻や子供と一緒に食事をしています。シンディは、私の大切なお友達です。日本も大阪弁も愛してくれて、とてもうれしいです。